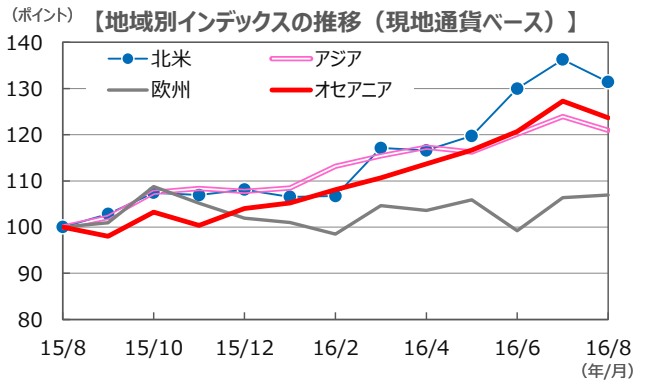


今日のトピック アジア・オセアニアのリート市場の最近の動向（2016年8月） 調整を経て底堅い推移へ

ポイント1 グローバル市場は反落 米国の利上げ観測が背景

- 8月のグローバル・リート市場は、現地通貨ベースで2.5%の下落となりました。FRB（米連邦準備制度理事会）のイエレン議長のジャクソンホールでの講演などが、米国の利上げを示唆するものだったことから長期金利が上昇する中、軟調に推移しました。
- 為替は日銀の追加緩和策への失望や、イギリスやオーストラリアが金融緩和を行ったこともあり、中旬までは円高基調で推移しましたが、月末にかけて米国の利上げ観測を織り込む形で円安が進行し、主要国通貨に対し月間では若干の円安となりました。



（注）データはGPRグローバル・ハイ・インカム・リート・インデックス（現地通貨ベース）。期間は2015年8月末～2016年8月末。2015年8月末を100として指数化。

（出所）GPR社のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 豪州、香港が反落 シンガポールは上昇

- アジア・オセアニア地域を現地通貨ベースで見ると、月間でオセアニアが2.8%、アジアが2.4%の下落となりました。
- オセアニアは、豪州でRBA（オーストラリア準備銀行）が8月2日に利下げを決定しましたが、当面の材料が出尽くしとの見方から反落しました。アジアは、香港が下落、シンガポールが上昇とまちまちでした。香港市場は米国の利上げ懸念が重石となりました。シンガポールはリートの相対的な業績の安定性と高い利回りが下支え要因となりました。

【各国・地域の騰落率（8月）（円ベース）】

国・地域	月間騰落率	国・地域	月間騰落率
グローバル	▲2.1%	オセアニア	▲3.0%
北米	▲2.8%	豪州	▲3.0%
米国	▲2.4%	アジア	▲2.3%
カナダ	▲4.9%	シンガポール	+0.9%
欧州	+0.7%	日本	▲3.4%
オランダ	▲0.2%	香港	▲1.6%
フランス	+0.5%		
英国	+1.1%		

（注）データはGPRグローバル・ハイ・インカム・リート・インデックス（円ベース）。

（出所）GPR社のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 アジア・オセアニアの相対的に高い配当利回りが相場の支えに

- アジア・オセアニアのリート市場は、短期的には米欧中の景気動向、金融政策など外部環境の影響を受けると見られます。中でも、米国の金利動向には注意が必要です。ただし、過去の米国の利上げ局面では、アジアのリート市場は堅調に推移しました。
- 今回の米国の利上げは緩やかなペースで行われると見られます。加えてアジア・オセアニアのリートは、高い経済成長を背景に、業績拡大と増配が期待されるうえ、相対的に配当利回りが高いことがサポート要因となり、堅調に推移すると期待されます。

ここもチェック! 2016年9月7日 最近の指標から見る米国経済（2016年9月）年内利上げの可能性を探る展開へ
2016年9月6日 豪州の金融政策は据え置き（2016年9月）政策金利据え置き

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。